

まきどき・植えどき・収穫どき
どきどき情報

4月

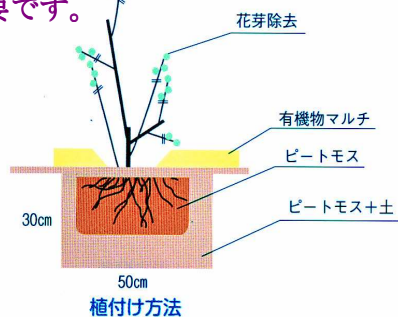
●野菜の作業

種まき・植え付け	栽培管理のポイント
<p>播種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホウレンソウ ・コマツナ ・ブロッコリー ・シュンギク ・チンゲンサイ ・ニラ(株分けも) ・サヤエンドウ ・パセリ ・セルリー ・キャベツ、レタス ・ニンジン ・露地用果菜類、シソ等 <p>植え付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バレイショ ・ウド、ミョウガ 	<p>【ナモグリバエ対策】 葉の中を食害するナモグリバエの発生が多くなってきます。ハモグリバエの成虫が黄色に誘引される性質を利用した黄色粘着シートなどを設置すると効果的です。ハウス栽培の場合、単棟ハウスではハウスの両サイドに設置します。粘着テープを長さ1.5～2mに切り、高さ0.5～1mの支柱に固定し、2～3mの間隔に設置します。ただし、ミツバチや天敵のハチも誘引されますので、ハチを栽培上利用する時には使用しないようにします。</p> <p>【アスパラガス】 露地アスパラガスは平均気温が12℃を越える頃から、一斉に萌芽伸長し収穫量が増加してきますが、ジュウシホシクビナガハムシなどの害虫の発生も多くなります。特に山沿いの畑などで毎年発生が多い所は、本年中に密度を下げたおかないと翌年の発生量がさらに増えますので薬剤（DDVP乳剤、アディオン乳剤など）で防除を行います。</p> <p>【バレイショの定植】 植付け前の2週間位、種イモを日があたる場所で日光に当て、芽を出させると後の出芽が早まる。（夜間は凍みないように保温！！）植付け適期は、標高500mで4月上旬。（100m上がる毎に5日遅らせます。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苦土石灰等の他に化成肥料1Kg/aを全面施用し、種芋は頂芽を中心とし、縦割りし（出芽が揃う）30～50g程度のものをうね幅60cm×株間30cmで植える。切り口を日陰で乾かして植付けます。

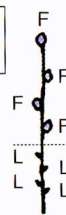


ブルーベリーの栽培

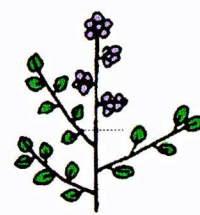
ブルーベリーは、保水性と通気性の良い酸性土壌（pH4.3～4.8）を好みます。根毛がなく根域が浅いため、乾燥・湿害に弱いので、ピートモス（pHを調整していないもの）を使用して根周りの環境をよくしてやる必要があります。



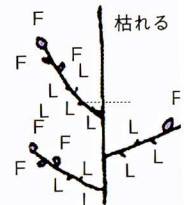
L-葉芽
F-花芽



休眠芽

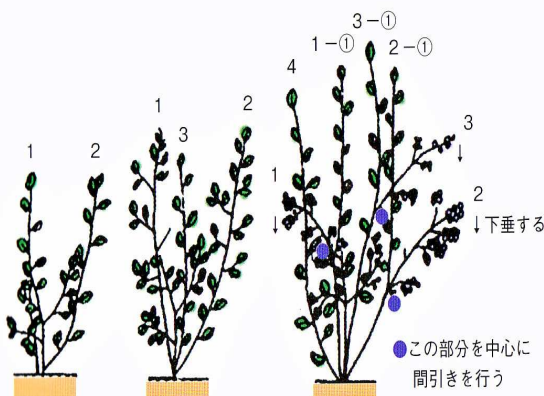


生長の様式



次年の休眠枝

ブルーベリーの結果習性（果樹指導指針）



ブルーベリーの木の生長のしかた（果樹指導指針）

植え付けは苗の根をピートモスで十分包み、周囲にもピートモスを入れ、さらにその周りはピートモスと土を混ぜたものを埋め戻して植付けます。ピートモスは事前に水になじませておきます。排水が悪いところでは高畦にして植え、表面にたっぷり有機物を敷きつめます。植付け時の施肥は行わず、植付け後30日位たったときに緩効性の固形肥料を1回につき一株当たり窒素成分で2～3g、1ヶ月間隔で2～3回与えてください。年次ごとに施肥量を増やしていき、成木の施肥量は1株当たり（年間）窒素成分で20g程度とします。ブルーベリーは強い肥料には弱いので、濃度の濃い肥料を一度に沢山施用するのはよくありません。

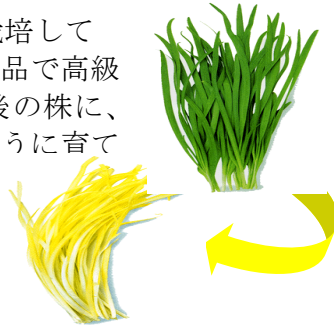
剪定は発芽前に行い、古い枝を間引き新しい枝に更新します。

成木では、古い枝を中心に1/3程度を間引きます。植付けから数年経過しても株が大きくなる主な原因は湿害、成らせすぎ、有機物不足などです。

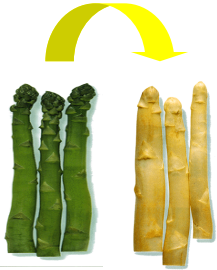
●ニラ・アスパラの遮光栽培はいかがでしょう？

【ニラ】

別名にらもやし。青いにらと同じ品種を軟化栽培して黄色に育てます。ほのかに甘く、香りは淡く上品で高級な中国料理に使われます。いったん収穫した後の株に、黒ビニールをかけ光をさえぎって、もやしのように育てます。岡山で栽培されています。



【アスパラガス】



グリーンばかりでなく、ホワイトアスパラがあっても面白いとおもいませんか？
ホワイトアスパラの国内の主要産地は北海道。高く培土し、土の割れ目からアスパラを掘り出す収穫方法がとられています。労力的に大変ということで栽培農家は減っているようです。長野県野菜花き試験場が 2006 年に遮光資材を使って省力的にホワイトアスパラの生産の試験を行った結果についてお知らせします。

トルコギキョウの短日処理に使用されている被覆資材（東岳興産社製ホワイトシルバー：遮光率 99%）を 4 月 24 日萌芽と同時に被覆を始め、5 月 1 日から収穫を開始しています。グリーンアスパラと同時期に収穫を打ち切った場合は収量が減少しましたが、7 日程度延長することによって同程度の収穫量となりました。グリーンアスパラよりも太物の比率が高くなったとの結果でした。但し、これは単年度の試験なので翌春以降の株に対する影響は試験してありません。遮光栽培ですから収穫は日の出ていない時間帯に行うことと、収穫後も光にあてないようにすることが必要になります。

この他にもウドの遮光栽培（軟白）は一般的ですが、調べてみるとはタンポポの葉を遮光して黄色く仕上げ（アクが少ない）サラダ材料に使うといったちょっとユニークな事例もありました。（日本では厄介者のタンポポですが、欧州では食用にされ、サラダ用の品種もあるそうです！！）
遮光栽培 遊び心で少しの面積試してみませんか？

●●● 遊び心が直売所をおもしろくする！！！！！！ ●●●●

●色々使える花き～アレンジアスター～栽培はいかかでしょう？

アスターは従来の中輪系のほか、色々な品種が販売されています。今栽培されている小輪系のアスターは仏花ばかりでなくフラワーアレンジなどにも重宝されていますので栽培してみたいかでしょう。

タキイ種苗：小輪アスター（ネネシリーズ：中生）の栽培を参考に挙げました。
は種：3月下旬から4月上旬 200～288穴セル成型トレイに行います。発芽適温は15～20度で適温であると3～5日で発芽してきます。（発芽を揃えるには、トレイに水を十分与えてから播種しその上にうすく覆土して水を与え、その上に濡れた新聞紙をかけて、さらに白寒冷紗などをかぶせ、発芽までは灌水せずにおきます。）発芽後は25度を目安に換気するとともに、加湿にならないよう管理し、4月下旬から5月上旬頃は露地条件に慣らし、しっかりした苗にそだて本葉5枚頃に定植します。植付けは、株間、条間とも12cmとします。

施肥はチッソ・リンサン・カリを成分量で各 1.5～2kg/a、苦土石灰を 2kg/a をすきこんでおきます。酸性土壌を嫌いますので、pHは6.5になるように調整してください。生育中は、立枯病が発生したらすぐに株を抜き取り処分します。

また灰色カビ病や、ハモグリバエ、オンシツコナジラミ、ヨトウムシの害があるので予防的に薬剤散布を行います。

湿害で立枯れが多くなりますし、乾燥状態では草丈が伸びないので、水はけがよく灌水ができる所が栽培に向いています。切り花は、5月上旬定植で8月上・中旬頃になります。3～4輪咲いたときに採花します。



あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター
櫻井普及員 (Tel 25-7156)